

Part20

「11月5日は、津波ぼうさいの日」の巻



てんちゃん、11月5日が  
何の日だか覚えてる??

えっ?? 11月5日?  
覚えて・・・ない!



柿と栗、みつけた。いいな!  
食べたい!! 食べたい!!  
食欲の秋だもん。



コラッ!! (怒)  
まじめにやりなさい!

それでは、お勉強べんきょうをはじめていきましょう！

つなみ ひ  
津波ぼうさいの日

とうほくちほう へいせい ねん おお つなみ  
東北地方（平成23年）で大きな津波がおき、  
おお ひと な う  
多くの人ひとが亡なくなられたことを受け、もっと  
つなみ き  
津波きに気きをつけないといけいないとのことから、  
11月5日を「津波つなみぼうさいの日ひ」としました。



なんで  
11月5日なの？



そっ、それは。  
つぎ  
次のページで！  
(しらべないと…)

また、11月5日の「津波つなみぼうさいの日ひ」は、せかいじゅう くに だいひょう  
世界中せかいじゅうの国くにの代表だいひょうが  
あつまるかいぎで「世界津波せかいつなみの日ひ」とも呼よばれるようになりました。

「津波つなみぼうさいの日ひ」と「世界津波せかいつなみの日ひ」は、おな  
同じおなってこと！！

わかって  
くれたかな？

なるほど！  
わかった！！



なぜ11月5日が「津波ぼうさいの日」になったかは、Part 5「てんてん旅行に行く」の巻にのっている「稲村の火」と大きくかんけいしているよ。  
忘れちゃった人のためにかんたんにつめいするね。



どんなお話  
だったかし  
らね。



よい子のみんな  
は、覚えていた  
かしら？



約160年前の11月5日に和歌山県に大きな津波がきた時、村長さんが丘の上にある稲のたばに火をつけて、めじるしにして、うすぐらい中でにげおくれた村人をひなんさせた「稲村の火」のお話がきっかけなんだよ。

思い出してくれたかな???

この「稲村の火」のお話は、一部の国語の教科書にもものっているんだって。

